

## さぬき・東かがわ市 研究のあゆみ

1 研究主題 知識・技能の明確化と目的意識をもった言語活動の単元化

### 2 研究活動の概要

- (1) 4月28日(木) 研究主題設定, 研究組織づくり, 研究計画立案  
 (2) 6月23日(木) 研究授業 於東かがわ市立本町小学校

部 会	低学年部会	中学年部会	高学年部会
学 年	2年	4年	5年
授業者	佐藤 ゆかり教諭	細川 尚人教諭	松村 和仁教諭
単元名	身の回りの便利グッズ 発見大会をしよう	「助け合う生きものず かん」を作ろう	新聞作成マニュアルを 作ろう
	「ふろしきはどんなぬ の」	「ヤドカリとイソギン チャク」	「新聞記事を読み比べ よう」
指導者	東かがわ市教育委員会 主任指導主事 笠石 裕子	香川県教育センター 主任指導主事 川井 文代	東部教育事務所 主任指導主事 田崎 伸一郎

※ 11月25日の四国国語教育研究大会を控え、当日授業する本町小の先生方が低・中・高学年で各1本の授業を行った。

- (3) 7月22日(金) 夏季研修会 於東かがわ市立本町小学校  
 「四国大会の発表について」  
 全体提案検討並びに各部会指導案検討  
 (4) 12月1日(木) 研究授業 於東かがわ市立白鳥小学校  
 3年 調べたことを整理して書こう「研究レポートを書こう」  
 松井 理加教諭  
 指導者 東かがわ市立本町小学校 萬 隆志教頭  
 (5) 1月20日(金) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

### 3 研究内容

- 本年度は、11月25日に東かがわ市立本町小学校で四国国語教育研究大会・香小研国語部会研究発表会が行われることもあり、大会を全面的にバックアップしていく体制で活動した。6月の本町小学校での研究会では、低・中・高で3本の授業が公開された。本町小学校の提案する「言葉を通して学び方を学び、生かす指導方法の工夫」を具現化した授業だった。授業後には、各部会で討議を行い、言語活動を軸とした単元構想のあり方、本時の学習指導過程、支援のあり方について活発な討議がなされた。また、四国大会での指導者の先生方から今後さらに研究を深めていくための助言をいただいた。
- 12月の授業は、研究報告文の特徴や構成の仕方を理解させるために、二つの研究報告レポートを比較し、気付いたことを交流させる流れであった。その際、自らの力で学習に取り組む力を育成させるために司会班を決め、子どもたちの司会進行により、レポートの書き方を自分たちで発見するようにしていくという意欲的な試みの授業だった。
- 11月25日(金)に本町小学校で行われた研究大会では、四国内外の多くの先生方の参加をいただき、盛会のうちに終えることができた。担当郡市として準備を進めてきたが、実りの多い1年であった。

## 小豆郡 研究のあゆみ

1 研究主題 知識・技能の明確化と、目的意識をもった言語活動の単元化

### 2 研究活動の概要

(1) 4月22日 苗羽小学校：研究組織作り，研究計画の立案

(2) 5月26日 土庄小学校：実践発表

「登場人物の生き方を考えておすすめの本のポップ作りをしよう」

土庄町立土庄小学校 木村美智代

研究発表「文学的な文章の基礎学力について」

小豆島町立池田小学校 井口有美

(3) 9月28日 北浦小学校：研究授業 「人物のようすや気持ちに気をつけて読もう」

土庄町立北浦小学校 黒島 久美子

### 3 研究内容

- ・ 9月の研究授業では、音読劇を演じるという言語活動を位置づけることで、「場面の様子を人物の行動に着目して読む」ことを一貫して学べる学習が展開された。また、各单元ごとに身につけたい「知識・技能」を『国語の知恵』として児童が使える形式で記録を残していくことの重要性を提案する授業となった。
- ・ 夏季研提案発表、四国国語研究大会発表に向け、6年生の「海のいのち」を教材としてポップ作りという言語活動を単元を貫いて実践したことで、児童自身が自分で読み、表現する喜びを味わうことができた。人物関係図という学習方法は、「人物の相互関係を考えながら読み取りを深め、作品の主題を考えて表現する」という知識・技能の明確化に有効に働き、目的意識をもった言語活動の有用性を強く感じた。

## 高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造  
～思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実～

### 2 研究活動の概要

- (1) 6月16日(木) <第1回研究授業・討議>

**東ブロック** 牟礼南小学校2年 お気に入りの話をしようかいしよう  
～「お手紙」～ 授業者 戸城 一騎

**西ブロック** 下笠居小学校6年 一人一人が感じたことを伝え合おう  
～「ばらの谷」～ 授業者 白川 恵美子

**南ブロック** 林小学校4年 目的による表し方のちがいを考えよう  
～「広告と説明書を読み比べよう」～ 授業者 吉田裕美

- (2) 11月24日(木) <第2回研究授業・討議>

**東ブロック** 木太南小学校6年 季節を感じよう  
～6年1組 子ども句会～ 授業者 河田 真理

**西ブロック** 鶴尾小学校4年 物語を読んで想像したことを述べ合おう  
～「世界一美しいぼくの村」～ 授業者 谷井 千鶴  
久保 斉

**南ブロック** 川東小学校6年「持続可能な社会」への取り組みについて調べよう  
～「未来に活かす自然エネルギー」～ 授業者 豊島 竹志  
林 敏宏

### 3 研究内容

<各ブロック研究授業より>

#### **東ブロック**

##### 第1回

- ・ 単元を貫く言語活動を行わなければならない。そのため、明確な目的意識を持った読む～話す・聞く活動を行う授業であった。話型や「話す・聞く」ときの観点を明確に示し、相手を意識して話すことができた。
- ・ 児童は、登場人物の優しさや思いやりを共感することができていた。次の読書活動につなげるためにも、シリーズの本を読み、登場人物の気持ちをより深く理解できるように紹介することも大切である。

##### 第2回

- ・ 句会のもち方は、いろいろ考えられる。単元・授業の中で身に付ける力にそって、正式な方法で行うのか、ねらいに基づきアレンジを加えた句会にするかを考える必要がある。

- ・ 句会では、十七音で紡がれた句の言葉を互いに評価し合うことが大切である。込めた思いを聞いて、そのためにはどんな表現をすればよいのかを話す場面がなくてはならない。
- ・ 友達の俳句を詠んで、さらによくするためのアドバイスをし合うことが必要で、そのためには、アドバイスカードなどを用意し、助言し合えるようにすれば、句会が連続して行え、表現する力が付くことにつながる。

## 西ブロック

### 第1回

- ・ 児童一人一人が読みの課題をもち、言葉にこだわって個やグループで課題を追求し、主題に迫る読みの力を付けていた。
- ・ 物語の構成や最も強く自分に語りかけてきたことを4コマ紙芝居に表現するという単元を貫く言語活動が設定されていた。課題解決が子どもの主体的な学びにつながった。
- ・ 主人公と他の登場人物とを対比させながら心情曲線に表すことで、主人公の人物像に迫り、その生き方を考えることができた。交流では、自分の心情曲線をなぜそう表現したか、それぞれの理由を書き込んだり言わせたりしたら、なお主題に迫ることができたのではないか。
- ・ 単元の終了時に、設定した言語活動が付けたい力を定着させるために有効であったかを振り返り、検証していく必要がある。

### 第2回

- ・ 目的意識と明確な視点をもった指定読書を設定することにより、中心教材の物語の世界を豊かに想像することができた。
- ・ 単元のはじめに、最後の一文の感想を紹介し合い、その後のヤモを想像するという課題を設定することにより、目標をもった読みが進められた。この一文のように、一人一人のとらえ方が大きく違ってくるころについて話し合うことで、一人一人の感じ方の違いに気付き、深め合うことができる。
- ・ 前時までの子どもの足跡から、子どもが何を読み取っていて、何が足りないのかの実態をよくつかんで支援に生かしていた。
- ・ 交流後、これからのヤモの気持ちを想像して書いたが、友達の意見を聞いたことが自分の表現にどう生きたかを書くことができたよかった。

## 南ブロック

### 第1回

- ・ 本来は「読む」活動を中心とした単元であるが、「読み取る力」と「書く力」をスモールステップでセット化することにより、双方の力の習得が図れるように単元構成を工夫した。
- ・ 広告と説明書の2つの文章を読み比べることを通して学んだ知識を使って、説明書を作り実際に伝える場面を設定した。

- ・ 教材文から読み取った表現の工夫を「書き方ブック」に記録し、他教科にも生かせるようにした。
- ・ 1時間1観点と絞った学習の繰り返しにより、児童が見通しをもって自発的に学習に取り組むことができ、学習意欲が高まった。
- ・ 観点ごとに読み進めることで、1観点での評価が可能となり、定着とつまずきははっきりし、個に応じた指導が可能となった。
- ・ 今後、非言語教材を読み取る力を付けるために、視聴覚機器を活用した授業展開が必要である。

## 第2回

- ・ 児童の「読む力」の習熟度や学習スタイルへの関心に基づいた少人数学習の形態をとり、学習を進めた。
- ・ 読み取りを通して学んだことを「ストックタンカー」という表現物にまとめ、自分たちのリーフレット作りに生かせるようにした。また、作成したリーフレットは他県の児童に評価してもらい交流の場を設定し、目的意識・相手意識をもって取り組めるようにした。
- ・ 子どもたちにじっくり考えさせるためには、教師の子どもたちの考えを揺さぶるような声かけや発問が必要である。
- ・ 「8の字」サイクルという家庭学習と授業を結びつける取り組みは、授業が充実し家庭と連携できるという面から効果的である。

〈夏季研修会より〉

研修1 第1回研修会の内容について、各ブロック研究部からの報告を受け、支部全体で交流し、共通理解を図った。

研修2 RNC 西日本放送報道制作局報道制作部の記者を講師に招き、講演を行った。

### 講演内容

- ・ 日本語の美しさは、同じ言葉であってもとらえ方や、シチュエーションによって、意味合いが変わることである。海外生活では、日本を意識するのは自分の名前であったこと。
- ・ 報道（放送）で扱う言語は短くコンパクトでなければならない。常に消えてしまうことを意識し原稿を作ることが、音声言語を扱う物にとっては重要である。
- ・ 放送原稿を書くときには、できる限り現場に出向くことで表現にオリジナリティが生まれ、心に残る表現につながる。
- ・ 人生の中にある節目節目の一言、言葉を大切にしている。

## 坂出市・綾歌郡 研究のあゆみ

1 研究主題 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用する学習をめざして

### 2 研究活動の概要

- (1) 4月13日 研究組織作り・研究主題の設定、研究計画立案
- (2) 6月14日 昭和小学校 研究授業・討議 授業者 山崎 秀美  
3年 二つの文章を読み比べ、書く人の工夫を考えよう  
— 「ほけんだより」を読みくらべよう —
- 11月4日 川津小学校 研究授業・討議 授業者 石谷 法子  
2年 松組 「あったらいいな こんなもの」発表会をしよう  
— 二年一組 はつ明じむしょ —

### 3 研究内容

#### (1) 昭和小学校の授業より

- ・ 本單元では、書き方の異なる「ほけんだより」の二つの記事を読み比べさせ、意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を養うことをねらいとした。意欲化を図るために導入段階で本論の文章を児童自身に考えて書かせ、筆者が書いた文章と比べることでよく分かる文章のひみつを見つけようという課題意識がもてた。また、読み比べの学習の後、学校で配布されている様々な便りを、書く側の思いや目的を考えながら読んだり、学活の時間に、自分の学級の係からのお知らせを新聞に書いて知らせたりするという活動をする中で、学んだことを実生活の中で活用することができた。
- ・ 本時は、二つの文章の伝わり方の違いを確認したうえで、その理由を文章の内容や説明の仕方から見つけだす学習をした。良い点を強調するか、悪い点を強調するかという内容面と、順序を表す言葉や文末表現の工夫に目を向けることで、それぞれの文章の表現のよさに気付くことができた。
- ・ それぞれの文章の書きぶりに応じて、児童に「〇〇作戦」と名前をつけさせたり、ワークシートを上下に区切り、比べて違いを見つけやすいようにしたり等、児童が主体的・意欲的に学習に取り組めるための様々な工夫がなされていた。また、グループ交流を取り入れたことでたくさんの児童が考えを発表することができた。

#### (2) 川津小学校の授業より

- ・ 本單元では、自分が考えた発明品の紹介カードを書く活動を通して、書こうとする題材に必要な情報を収集する力および、書く事柄の順序を整理する力をつけることをねらいとした。子どもたちにとって、文房具や生活用品などの身近な道具を改造して、あったらいいなと思う道具を発明していく内容となっており、どの児童も意欲的に取り組むことができた。
- ・ 本時では、発明メモをもとに、発明品のよさや工夫が伝わるような紹介カードを書くことができることをめざした。ただ、考えた発明品を教材文を参考に見て書くだけでは、児童の実態から、つまずきが予測されたため、教師が考えたメモから紹介文へと書き換える「おけいこ作文」を取り入れた。書く活動の前に段階を踏むことで、より多くの児童が自分のメモを用いて紹介文を書くことができた。メモから文章に書き換える方法を児童と共に考え、作り上げる活動は、見通しをもちやすくする上で、効果的であった。
- ・ 文章を書く前提として、読み手の存在を意識し、分かりやすく伝えるということが、どうということなのかを具体的に児童に示すことが大切である。分かりやすく伝えることで、自分の考えを相手に認めてもらえたり、書き方の良さを見つけてもらえたりすることができ、児童は書く喜びを味わうことができるのである。また、メモも活用することで、書き直すことや段落構成を考えることに抵抗感をあまりもつことなく取り組めた。

## 丸亀市 研究のあゆみ

1 研究主題 知識・技能を習得し、活用するための授業の工夫

### 2 研究活動の概要

(1) 4月13日 富熊小学校 研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成

(2) 6月8日

低学年部会〈四国大会提案内容検討会・講演〉

提案 「伝統的な言語文化に関する事項における領域を関連づけた授業実践」

－ 「はなさかじい」を劇・歌・続き話で発表しよう －

提案者 飯山南小学校 北分 彩 三宅隆子

講演 「昔話を楽しみましょう！」

城東小学校 図書館指導員 高山由美子先生

高学年部会〈研究授業・討議〉

郡家小学校 6年『わたしの意見』を書こう」

授業者 大西慎二 指導者 佐藤浩二先生（教育センター）

(3) 12月7日〈研究授業・討議〉

飯山北小学校 1年「すきなもののクイズ大会をしよう」

授業者 岩田涼子 指導者 篠原智子先生（附属坂出小学校）

### 3 研究内容

- ・ 提案内容の検討では、多様な言語活動を、児童が主体となって行った実践提案について聞き、効果的な発表方法など意見交換を行った。その後、昔話と民話・伝説との違い、昔話の特徴などについての講演を聞いた。
- ・ 6年『わたしの意見』を書こう」では、児童と教材との接点を大切に教材分析の視点について考え、意見文を推敲する活動において、推敲の観点に気付かせるための工夫について話し合った。
- ・ 1年「すきなもののクイズ大会をしよう」では、児童に身に付けさせたい力を明確にしておくこと、またそれが活用できる知識・技能でなければならないことを改めて実感させられた。さらに、授業の中で、豊かな言語活動が体験できるための教具の工夫や視覚的な支援の方法について話し合った。

## 仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

### 1 研究主題 知能・技能を習得し、活用する学習の構築

### 2 研究活動の概要

(1) 4月22日 善中央小 研究組織作り，研究主題の設定，計画立案

(2) 6月17日 善中央小 研究授業

3年「読んで、かんそうをもとう

～イルカのねむり方・ありの行列～」

授業者 小川 ひとみ 教諭

指導者 西岡 由都先生（香大附属坂出小）

(3) 7月22日 善西部小 授業実践・教材研究

指導者 安部 和江校長先生（善通寺市立西部小学校）

(4) 10月27日 満四条小 研究授業 1年「のりはかせになろう

～「いろいろなふね～」

指導者 篠原 智子先生（香大附属坂出小）

### 3 研究内容

- ・ 善中央小（3年）の授業では、教材文の文末の表現や時間を表す言葉を手がかりに正確に読み取る活動や2つの実験を比べて相違点を見出す活動を通して、行列の道筋は変わらないという結果を理解し、ありへの驚きや、分かりやすい論の進め方をしているウィルソンの考え方について感想を持つという授業が提案された。実験結果を元にありが通った道筋を通らすことで理解を深められるように支援されていた。指導者の西岡先生からは、国語科における「言語活動の充実」において単元を貫いて言語活動を位置づけるために感想文を交流するという目的を持ち、その目的に応じて説明文を読んでいくということ。また、指導目標にあった言語活動を設定するために言語活動・書く活動の指導事項をはっきりと理解して取り組むことが大切であるという指導を頂いた。
- ・ 満四条小（1年）の授業では、ポンプ車とはしご車を比べる活動を通して、はしご車の「役目」を理解し、「工夫」や「機能」について、分かりやすく説明する文章を書くという授業が提案された。前時までの文章の書き方の中から「役目」「工夫」「機能」についての説明の仕方を分かりやすく色分けされたカードに書くことができるような支援がなされていた。指導者の篠原先生からは、言語活動の充実について目標を実現するのが言語活動であり、言語活動が目的ではない。学習の成果を残し、既習の学びとして次の単元で使えることが大切であるというご指導を頂いた。



## 三豊市・観音寺市 研究の歩み

- 1 研究主題 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用する学習の構築  
— 知識・技能の明確化と、目的意識を持った言語活動の単元化 —

### 2 研究活動の概要

- (1) 4月21日 研究組織作り、研究主題の設定、研究計画の立案（観音寺南小学校）
- (2) 6月14日 三観小研 研究授業（本山小学校）  
4年 人物の様子や気持ちを考えながら読もう 「走れ」：東京書籍  
授業者 藤田敦士先生 指導者 中田祐二先生（附属坂出小学校）
- (3) 7月22日 夏季研修会（三豊市市民交流センター）
- ・ 講演「これからの国語学習の方向性」  
講師 佐藤 明宏先生（香川大学教育学部教授）
  - ・ 分科会（ワークショップ）  
「伝統的な言語文化」に関する教材について  
第一分科会 2年下「おばあちゃんに聞いたよ」  
第二分科会 4年下「百人一首」  
第三分科会 5年下「古文に親しもう」

### 3 研究内容

本山小学校では、「ともに学び、考えを高め合う子どもの育成」—言語活動の充実を基盤とした反応の組織化をめざして—のテーマの基に、研究の柱を①自分の考えをもって交流し、学び合う学習の推進②自分の考えや筋道を明確にしていくノート指導の充実③豊かな表現力を育成する言語活動の日常指導の工夫の3点に焦点化し、実践研究をすすめている。本実践(4年)では、会話や行動、心内語などをてがかりにして、登場人物の心情を想像したり、人物同士のかかわりを明らかにしたりすることを核とした学習が提案された。反応の組織化に向けては、前時の学習とつないで、のぶよの気持ちについての自分の考えをもたせ、理由や根拠を明らかにしながら、交流させた。その際に、切り返しや揺さぶりの発問や助言により、考えを深められるように支援されていた。また、板書も組織化されており、児童の思考に役立っていた。話し合いでは、児童の聞き合う力が育っており、交流が活発に行われていた。

指導者の中田先生からは、本実践における指導事項と言語活動の関係について、次の3点を示唆していただいた。本単元は、「物語や詩を読み、感想を述べ合う言語活動」をねらいとして、①感想がどの叙述に基づいているか、②自分の経験や考え・関心とどのように関連しているのか、③自分の感想と友だちの感想を比べて、特徴を認識することの大切さについて指導いただいた。本時の学習課題を「のぶよの気持ちが変わった理由を考えよう」とし、行動が変わるときはその直前に理由があるので、前の場面とつないだり、自分の経験とつないだり、題名とつないだりして考えることが大切であることをご指導いただいた。